

平成 22 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

<b>研究領域名</b>	シナプス・ニューロサーキットパソロジーの創成
<b>領域代表者</b>	岡澤 均（東京医科歯科大学・難治疾患研究所・教授）
<b>研究期間</b>	平成 22 年度～平成 26 年度
<b>科学研究費補助金審査部会における所見</b>	<p>本研究領域は、アルツハイマー病やパーキンソン病、さらには自閉症など、これまで 100 年にわたって組織レベル・遺伝子レベルでしか解明できてこなかった脳変性疾患や脳発達障害などの神経疾患の発症機序を、新しいイメージング技術を応用し、神経病理学的に、神経細胞のシナプスレベル、さらには、神経回路レベルで解析を行おうとする意欲的な提案である。本研究によって神経病理学において長年の謎であった「系統変性」の一端が明らかになるものと期待できる。in vivo 分子イメージング技術や iPS 細胞による神経回路解析など新技術開発を縦糸に、in vitro 研究から in vivo 研究までつなげようとする試みも新しく、神経病理学に新しいパラダイムシフトを起こそうとする点も期待できる。</p>